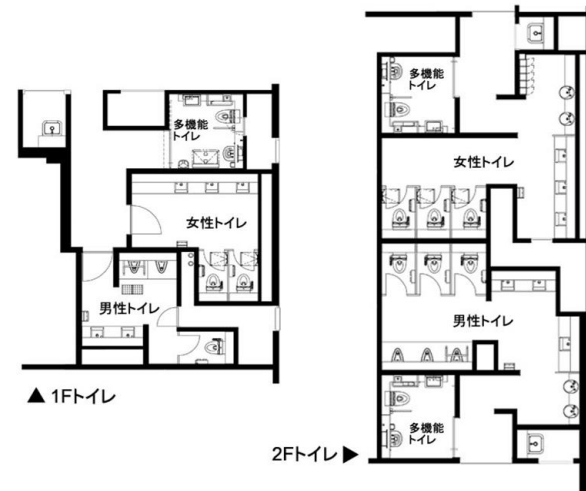


外観



大阪のビジネス・商業の中心地である梅田エリアに近接した場所に立地する宇治電ビルディング。

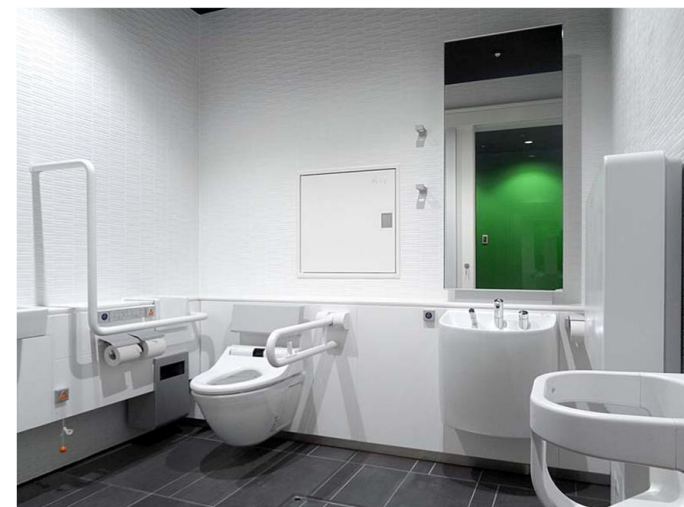
1F・2F トイレ図面



▲ 1Fトイレ

▶ 2Fトイレ

1F 多機能トイレ



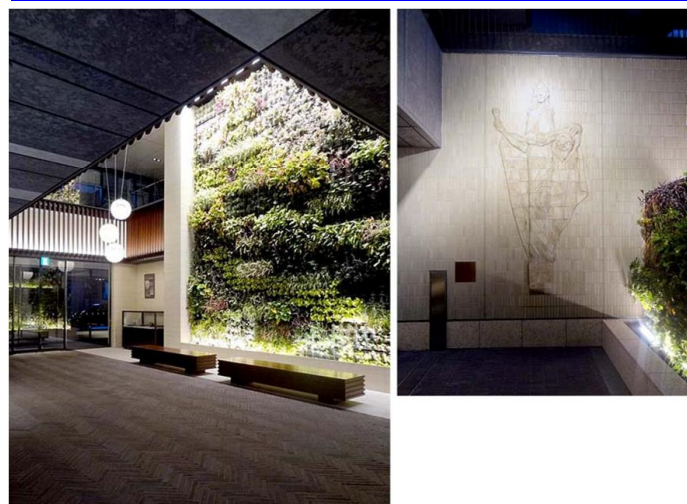
使いやすさと同時に空間としての統一感のあるデザインを実現した、RESTROOM ITEM 01の多機能トイレパックを採用。オストメイト対応マルチパックとベビーチェア、ベビーシートを完備している。

2F レストスペース



赤いソファがアクセントのレストスペース。

エントランスホール



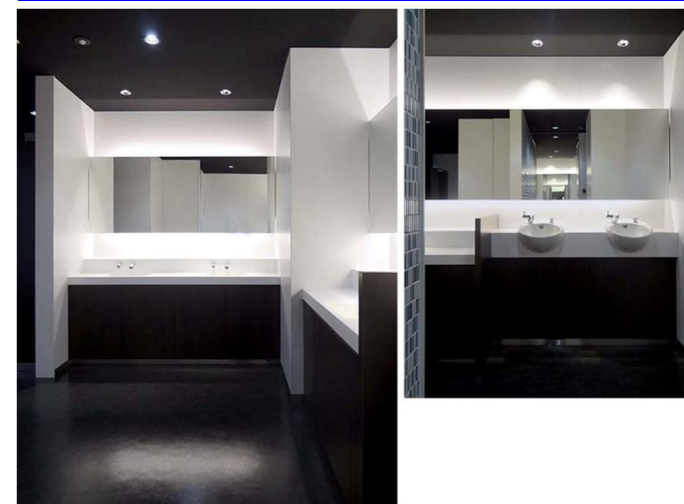
左) エントランスホールには緑化壁を設置。右) ビルの外壁には、旧ビルの外壁を飾っていた神像レリーフをモニュメントとして設置。同じく神像レリーフの一部は大阪市(大阪歴史博物館)に寄贈されている。

1F トイレ入口



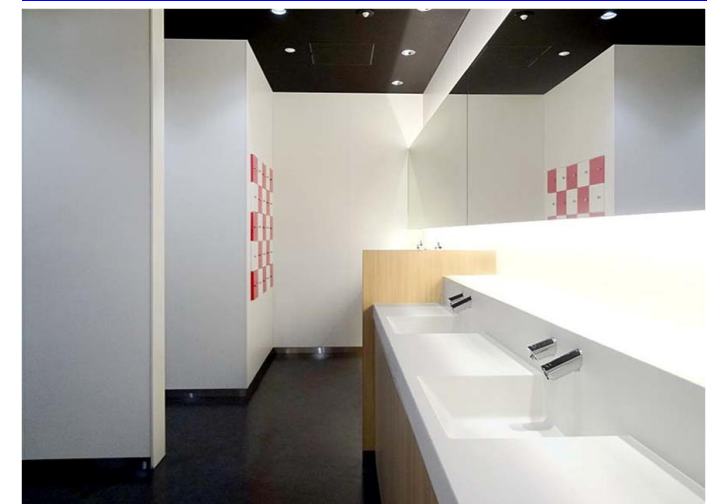
コーヒーショップやコンビニのお客様など、よりパブリックに利用される1Fトイレ。グリーン光沢壁が印象的なトイレ入口。

2F 男性トイレ 洗面・歯みがきコーナー



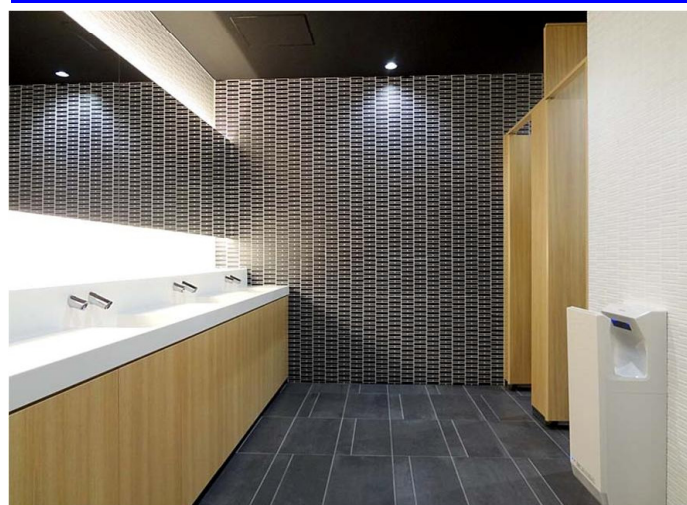
ダークブラウンとホワイトの組み合わせが、凛とした重厚感を感じさせるシックな空間。

2F 女性トイレ 洗面コーナー



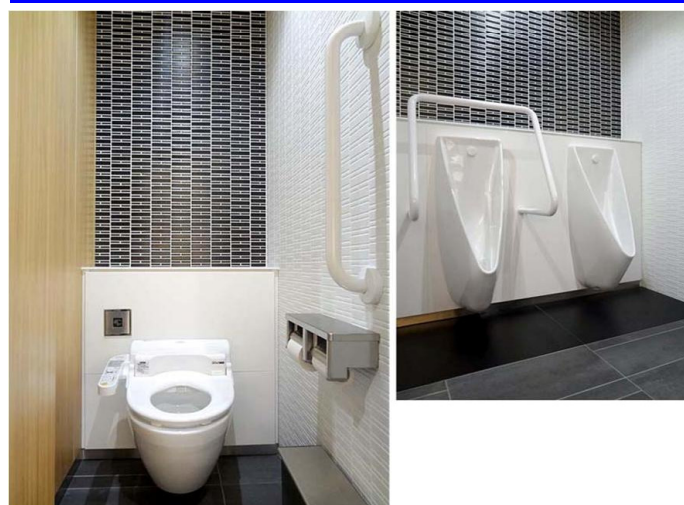
洗面カウンターは、水濡れを心配せずに化粧ポーチなどの小物を置くことができるツインデッキカウンターを採用。水栓金具と水石けん供給栓は、どちらも手を触れることなく操作できる自動タイプ。

1F 女性トイレ 全体



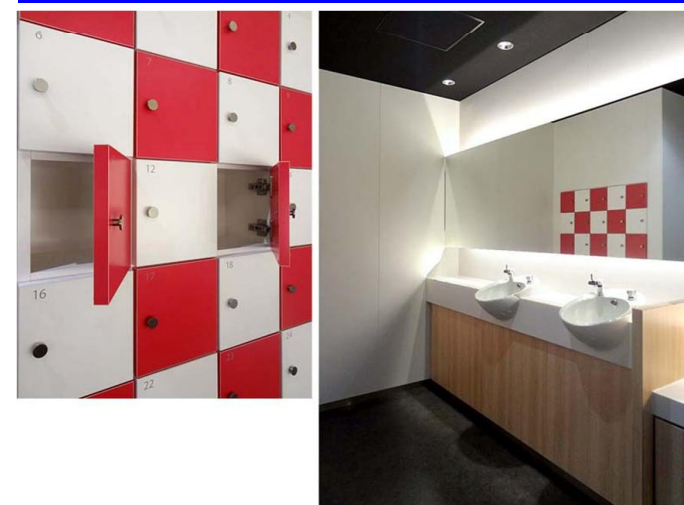
個性的な壁タイルとナチュラルカラーの木目調パネルを組み合わせた上質で落ち着いた雰囲気の空間。

1F 大便器ブース・小便器コーナー



大便器は床の清掃性に優れた壁掛式大便器を採用。小便器は節水のための最先端技術を備えたシンプルなデザインのRESTROOM ITEM 01小便器を採用。

2F 女性トイレ 歯みがきコーナー



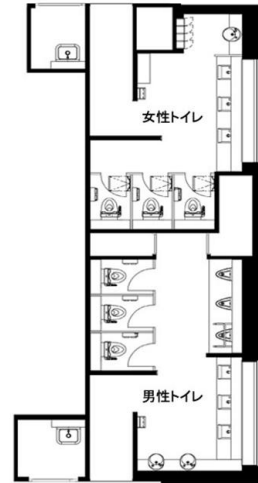
歯みがきコーナーには、化粧ポーチや歯みがきセットなどを収納できるプライベートな小物入れを設置。赤と白の市松模様が空間のアクセントになっている。

2F 多機能トイレ



男女トイレの入口横に多機能トイレを各1ヶ所設置。オストメイトの方に配慮して、オストメイト対応マルチパックを備えている。

4-13F (基準階) トイレ図面



4-13F トイレ入口



男女トイレのサインは壁の上にさりげなく表示。通路正面のタイル壁の色調で男女トイレを区分している。

4-13F 女性トイレ 全体



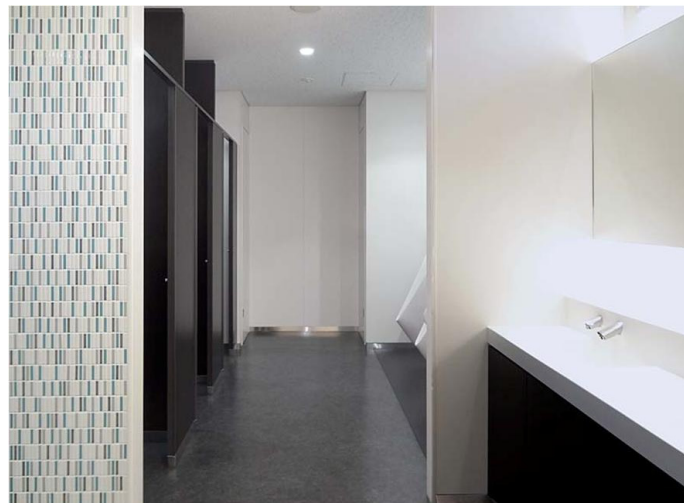
女性トイレは、白とナチュラルカラーの木目調のパネルが温かみを感じさせる空間。出入口の近くの壁に身だしなみチェックのために全面鏡を設置。空間の広がりを感じさせる効果もある。

4-13F 女性トイレ 大便器ブース



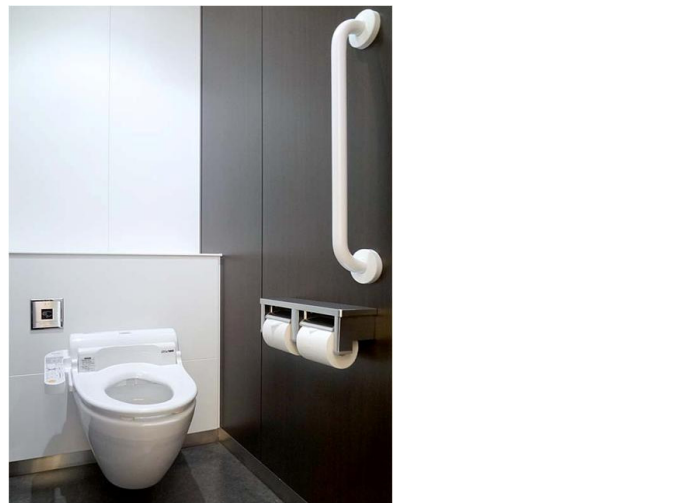
女性トイレには、すべての大便器ブースにストッキングの履き替えなどができるフィッティングボードを設置している。

4-13F 男性トイレ 全体



男性トイレは、ダークブラウンと白を基調としたシックで落ち着いた空間。大便器ブースの間仕切りを天井まで立ち上げ、個室感を高めている。

4-13F 男性トイレ 大便器コーナー



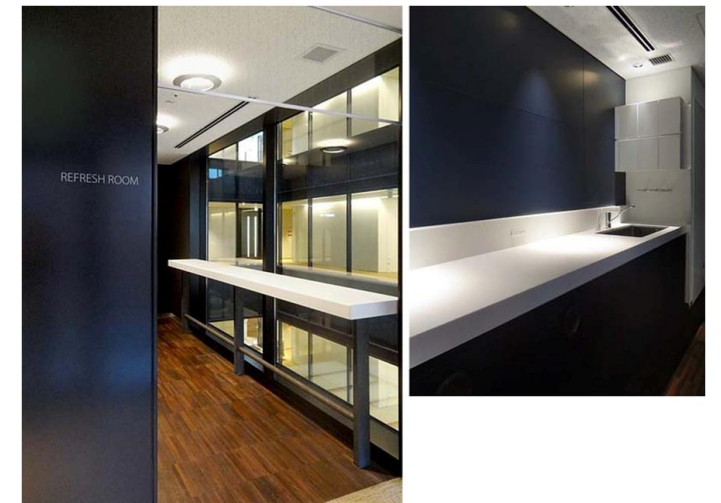
大便器は床の清掃性に優れた壁掛式大便器を採用。

4-13F 女性トイレ 洗面・パウダーコーナー



洗面カウンターの対面にパウダーコーナーを設置。化粧鏡の下には、ポーチなどが一時置きできる棚スペースが設けられている。

4-13F リフレッシュルーム



共用部には、給湯室とレストスペースを備えたりリフレッシュルームを設置。床は重厚感のある無垢のフローリング材。

4-13F 男性トイレ 小便器コーナー



節水のための最先端技術を備えたシンプルなデザインのRESTROOM ITEM 01小便器を採用。足元には尿の飛散によるにおいや、汚れを軽減するハイドロセラ・フロアを設置している。

4-13F 男性トイレ 洗面・歯みがきコーナー



洗面カウンターは、カウンターとボウルに継ぎ目がなく、清掃性に優れたボウル一体形カウンターを採用。昼間は鏡上部のスリット窓から自然光が射し込む。写真奥が歯みがきコーナー。

建築概要

名称	宇治電ビルディング
所在地	大阪市北区西天満四丁目8-17
施主	関電不動産株式会社
設計	株式会社日本設計
施工	清水建設株式会社
竣工年月	2014年10月

水まわりの特長

<建物の特長>

旧宇治電ビルは1937年に宇治川電気の本社ビルとして竣工。その後、関西電力の本社ビル、一般テナントビルとして継承された伝統的建築物であったが、2012年に建物の老朽化もあり解体。跡地に新しい宇治電ビルディングが建てられた。建物中央に光庭を配置し自然光をビル内に取り入れているほか、自然換気に利用し、エントランスに緑化壁を設置するなど、環境への取り組みが評価され、CASBEE大阪みらいの最高ランク「S」を取得。また、災害などの緊急時のBCP対応として連続48時間運転可能な非常用発電機を設置、建物をゲリラ豪雨から守るギアアップ式防潮シートを備えるなど、安心・安全の対策も講じられている。

<トイレの特長>

清掃性に配慮して、大便器は床の清掃性に優れた壁掛式、洗面カウンターは、カウンターとボウルに継ぎ目がなくボウル一体形カウンターを採用。小便器の足元には尿の飛散によるにおいや汚れを軽減する、ハイドロセラ・フロアを設置。そのほか女性配慮として、すべての大便器ブースに、ストッキングの履き替えなどができるフィッティングボードを、歯みがきコーナーには、化粧ポーチや歯みがきセットなどを収納できる小物入れを設置している。2F以上のトイレは、男女の入口を南北に分けプライバシーに配慮している。